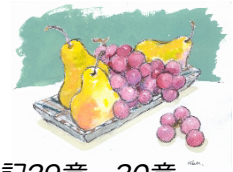
グリニッチ福音キリスト教会　　週報 916 付録
Manna マナ (030号)　　2008年10月26日



【先週のMESSAGEより】

神さまの訓練の時　　*創世記29章、30章*

●ヤコブは兄を逃れ、母の勧めに従い800kmの距離を旅し、ハランに住む伯父ラバンの下に身を寄せた。そこでラバンの二人の娘、レア、ラケルとをめとり、さらに妻達の女奴隷、ジルパとビルハの合計四人との間に１２人の男子と一人の女子を設けた。彼らが後のイスラエルの１２部族※となる。ヤコブも、彼の母リベカも共に策謀家であったが伯父ラバンも同じ気質の持ち主で、居候していたヤコブの弱みを巧みに利用し２０年間、ヤコブを自分のために働かせることに成功する。兄と父をだましたヤコブは今度は自分が苦い薬を飲まされる羽目になった。

●しかしこの時間は決して無駄に過ぎたわけではなかった。彼はこの期間にこそ次に挙げるような多くの訓練を受けることなった。

１）孤独に耐え、主と個人的に交わるデボーションの訓練
２）ラケルのため働くことを通し、報酬のために熱心に働く訓練
３）不当な上司ラバンの下で文句を言わず忍耐して働き続ける訓練
４）４人の女性、１２人の子供を相手に公平に人を扱う訓練
５）ラバンのもと、不当な労働条件下で戦って行く訓練
６）与えられた環境の中で創意工夫する訓練

●訓練はいつかは終わる。これはグッドニュースである。31:3で神は「そこまで」と言ってくださり、故郷に帰るよう命じられた。神は私たちをヤコブと同じように「子供」として扱い、ご自身が与えようとしている使命を果たす準備として「訓練」を与えてくださる。今、試練や苦難にあっているなら、神の訓練として受け止めていこう。必ず耐えることができると神は約束してくださった。そして神は訓練された私たちを通してご自身の栄光を明らかにしてくださるのである。■

※三男レビは祭司となり各部族に散らされたので一部族としては数えず、その代わり11男のヨセフの息子、マナセとエフライムがそれぞれ一部族と数えられた。

【今週の暗唱聖句】　**詩篇34章18節**

主は心の打ち砕かれた者の近くにおられ、霊の砕かれた者を救われる。･･･クリスチャンは信仰を持ってから自我の砕きのプロセスに入ります。自らの頑なさを知れば知るほど、十字架の意義を知る恵みに与るようになるのです。

【今週の英語･･･選挙に向けて】

Constitutional Convention Address on Prayer *by Benjamin Franklin*

delivered Thursday, June 28, 1787, Philadelphia, PA

"And have we now forgotten that powerful Friend? or do we imagine we no longer need its assistance? I have lived, Sir, a long time; and the longer I live, the more convincing proofs I see of this Truth, that God governs in the Affairs of Men. And if a Sparrow cannot fall to the Ground without his Notice, is it probable that an Empire can rise without his Aid?"

「我々は早くもあの強力な友人のことを忘れてしまったのだろうか。あるいはその助けを必要としないと思っているのだろうか。お聞きください。私は長く生きて参りました。そして長く生きれば生きるほど、神が人間の営みをご支配なさるという真理に関する証拠を数多く見るようになって来ています。一羽の雀さえ神に知られずに地に落ちることがないのだとすれば、神の助け抜きに一国が発展することなどあり得るだろうか。」

【選挙の投票基準はどこに？】

グリニッチ教会で投票権を持っている方は数名しかいらっしゃりませんが、選挙はクリスチャンが果たすべき重要な義務です。指導者を選ぶ時にクリスチャンが特に注意を払って候補者の中に何を見るべきか、幾つかの項目を並べて見たいと思います。

●**神の御前における謙遜と恐れが行動の原点になっているか。**人間よりも偉大な基準を心の内に持たない人は隠れた所でどう行動するか分からない。

●**神の賜物である自由意志を尊重し、自己責任の原則に立っているか。**人が愚かな選択をする度に政府が尻拭いする社会は長くは続かないであろう。

●**人間の罪の問題を正面から見据え、正しく規制する立場に立っているか。**人間は本来罪人であるという認識なしに正しい政策は打ち出せない。

●**共同体の基本単位は「夫婦･家族」との確信に基づき、その保護のために戦うか。**夫婦間・親子間の「信頼」の絆の強さが社会の強さである。

●**「命」は神から、天与との確信に立ち、胎児、障害者、高齢者のために戦えるか。**神の基準を失うなら人間の命の価値はどこまでも相対化する。

●**神が「自然界」の管理責任を人間に与えておられるとの認識に立ち、**適切な環境保護の政策を採ることができるか。

●**世界、更に国内に広がる貧困・飢えの問題に取組む姿勢があるか。**この問題は聖書がもっとも多く語っていることの一つであり神は見ておられる。

●**戦争はあらゆる外交努力がなされた最後の手段としてのみ用いるという立場に立っているか。**罪の問題に目を覆って平和主義を唱えることはナイーブであるが、平和を作り出すことを優先することを神は求めておられる。

すべての人のために、また王とすべての高い地位にある人たちのために願い祈り、とりなし、感謝がささげられるようにしなさい。Ｉテモテ２章１節